

令和3年度「特色ある学校づくり対策事業」

佐世保市立日野小学校



校長 山口 博徳 児童数592名 学級数 23学級

特色ある学校づくりのテーマ

「自分の考えや思いを豊かに表現し、
共に高めあう児童の育成」

「夢」「笑顔」「元気」を引き出す教育の推進と
創意工夫を生かした特色ある学校づくり

- (1) 学力調査をもとにした一人一人に応じたきめ細かな指導の充実。
- (2) 言語活動を充実させて、自分の思いを表現させることを通して学力の底上げを図る。
- (3) 地域体験活動をととした郷土愛の育成。
- (4) 地域の方々との交流を通しての開かれた学校づくりの推進。
- (5) プログラミング教育の推進。



地域の「人」・「自然」・「もの」

第1学年「『昔遊び』でふれあいを」

○ 児童は、生活科「むかしからのあそびをたのしもう」の学習で、昔遊びに親しんだ。友達と教え合ったり、昼休みに自分たちで練習したりしながら、少しずつ上達していった。児童の祖父母や父母、地域の方にも声をかけて「むかしあそび交流会」を行った。35名の方が来てくださり、あやとり・おはじき・お手玉・羽根つき・かるた・だるま落とし・竹とんぼ・けん玉・竹馬・こま回しの遊びで、一緒に遊んだり教えたりして触れ合ってくださいました。コロナ禍の中で参加者を制限したが、普段交流の少ない祖父母や地域の方と、話したり、教わったり、尋ねたり、一緒に遊んだりするよいふれあい体験ができた。

○ 早く学校生活に慣れるように、いろいろ教わってお世話になった6年生の卒業式に飾るために、感謝とお祝いの気持ちをこめて、自分の植木鉢にビオラを植える栽培活動に取り組んだ。



第2学年「町の人にインタビューしよう」 「おいしいやさいをそだてよう」

○ 生活科「もっと知りたい たんけんたい」の学習の一環として、日野交番や日野郵便局を訪問した。警察官の方や郵便局の方にお話をしていただき子どもたちからの質問にも詳しく答えていただいた。また、小学校近くにあるパン屋さんで働く方にもインタビューすることができ、身近にあるお店の方から詳しく聞くことができた。話を直接聞くことで、地域で働く方の思いや願い、苦労されていることにも触れることができ、地域に対する子どもたちの愛着を高めることができた。

○ 校区にお住まいの地域の方から、学校そばに所有の畑をお借りして、さつまいもの栽培を行った。6月に苗さしを行い、以降水やり、草取りのため数回畑まで足を運んだ。11月中旬に収穫を行った。収穫したさつまいもを使って例年行っている「親子クッキング」は、今年度はコロナウイルス感染症の影響で実施を見送り、いもは児童に持ち帰らせた。



第3学年「九十九島ふしぎ発見！！」

○ 九十九島は西海国立公園の中にあり、佐世保市の雄大な自然のすばらしさを象徴するものである。子ども達は自分たちの近くにある九十九島について関心を持ち、九十九島の豊かな自然や生き物について知ることで、自分のまわりの自然環境を大切にしていけることを目的として学習をすすめてきた。

○ 年間5回にわたり、九十九島水族館「海きらら」や長尾半島に出かけ、九十九島の生き物やその生態について楽しく学習をすることができた。イルカやクラゲなどの生態についても詳しい話を聞いたり、見学をしたりして興味深く学習を進めることができた。また、自分たちが調べたことをまとめて発表会を行い、自分たちが住んでいる地域の良さや特長を再確認することができた。



第4学年「平和学習（わたしたちが考える平和の日）」

○ 4年生は、平和学習の一環として戦争や平和について学習を進め、「長崎県民祈りの日（8月9日）」に合わせて、スライド発表を行った。各学級で5～6班に分かれ、それぞれのテーマに沿って調べたことを「スライドショー」形式で発表するものである。

各班は8月9日の全校での平和集会（放送集会）後に、1～3年、5年6年の各担当教室に赴き、準備・練習してきたスライド発表に取り組んだ。児童一人一人に貸与されているタブレット端末（クロムブック）を活用して調べ、スライドにまとめたものを流し、それに合わせて発表をしていった。発表における役割・分担が各児童にあり、調査・準備段階から発表本番まで児童はタブレット端末の操作を行い、ICT活用力が少しずつ向上していった。また、普段はあまり交流のない他学年児童の前での発表ということで緊張感もあったが、よい経験・発表ができたものと思う。なお、ICT活用力には大きな個人差もあるため、互いが助け合うなかで、相手を尊重したり、思いやり合ったりするというよい成果も見られた。



第5学年「ふくし」って何？

○ 佐世保市社会福祉協議会の協力により、障がい（肢体、視覚）がある方の生活体験を行った。その後、福祉について調べたり、体験したりすることで、福祉の概念をとらえることができた。また、地元のグループホームとのビデオを用いた交流を通して高齢者福祉を身近なものとして捉えることができた。コロナ禍で活動の縮小や変更を余儀なくされたが、その都度、児童らには対応を話し合い、学習を深めることができた。



第6学年「プログラミングを体験しよう」

○ 教材本を使ってプログラミング的思考の基本概念をおさえたうえで、プログラミングカーを用い、ねらい通りに動かすためにはどんな命令をどんな順番で与えればいいのかを考えた。命令ブロックを並べてプログラミングし、目の前で実際に動かしてみることによって、「コンピュータは命令しないと動かない」「命令した通りにしか動かない」ということを、身をもって体験することができた。

この活動を通して、班の友達と協力しながらプログラムを作成することで、仲間を受け入れ、対話の中で課題解決しようとする力や人間性を高めていくことにつながった。また、身の回りにはあふれているプログラムにも目を向けることができるようになった。

